

令和元年度 事業計画書

日本河川・流域再生ネットワーク

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

会員及び海外連携機関との協働を基本に、川づくりについて共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じて、各地域に相応しい川づくりの技術や仕組みづくりの発展に貢献し、国内外のネットワークの拡大を図ります。

令和元年度は、川づくりに関わる情報共有基盤の更なる強化、川づくりの担い手の育成に向けた普及・啓発や協働・支援活動、また日本の川づくりの経験をアジアへ還元するための国際的な技術交流に取組み、川づくりの中間支援機能及びインキュベーターの役割を担ってまいります。

【1】川づくりに関わる情報共有基盤整備

全国の川づくりに役立つ有益な情報を、会員及び海外連携機関の協力を得ながら集約し、それらをホームページやソーシャルメディア（随時更新）、ニュースメール（毎週配信）、ニュースレター（毎月発行）等を通じて広く社会一般に発信し情報循環を図ります。また、「水辺の小さな自然再生」ホームページや facebook の運営を通じて、水辺でできる小さな自然再生の事例や技術情報の普及にも取り組みます。

また、アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の事務局運営を担い、ARRN 活動成果やアジアにおける河川再生関連情報の普及に努めます。



JRRN web

随時更新



JRRN facebook

随時更新



JRRN newsletter

毎月発行



ARRN web

不定期更新



小さな自然再生 web

不定期更新

※JRRN ホームページからすべてにアクセスが可能：<http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN が運営・管理する主な情報媒体

【2】川づくりの担い手の育成及び協働・支援

川づくりの担い手を増やし、技術の向上を図りながら地域に根ざした川づくりを展開していくためには、同じ問題意識を有する仲間が集う機会を創り、各地域の川づくりに資する情報や経験を共有しながら、活動への参加のハードルを下げることが重要と認識しています。そこで、川づくりの普及・啓発と人材育成を目的とした行事を主催・共催するとともに、JRRN 会員を含む川づくりに関わる諸団体が取り組む公益活動との協働及び支援を行います。

(1) 「桜のある水辺風景 2019」写真公募と写真集制作・普及

水辺が創出する美しい景観の未来への継承を目的として、2019 年に撮影された「桜のある水辺写真」を一般より募集し、ソーシャルメディアで紹介するとともに、写真集としてとりまとめ普及します。



2018 年写真集と 2019 年作品募集チラシ

(2) 水辺でできる「小さな自然再生」の全国普及 《河川基金助成事業》

「小さな自然再生」研究会の運営幹事として、研究会メンバーの協力を得ながら、水辺でできる「小さな自然再生」の普及促進に向けた交流行事の開催、座学及び現地実習で構成されるフィールドワークショップ等の研修行事を支援します。また、全国の「小さな自然再生」活動から得られた経験や技術等を集約した「水辺の小さな自然再生事例集 II」を制作・普及します。



小さな自然再生事例集 I

(3) 川づくり団体との協働・支援

全国の川づくりの担い手との協働を通じて、川づくりを取り巻く現場の生の課題に向き合いながら、川づくりを取り巻く諸課題の克服に向けた新たなサービスや機能を創出します。

【3】川づくりの国際的な技術交流

アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の事務局及び日本窓口組織として、ARRN メンバーによる技術交流を目的とした『第 16 回 ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム』を令和元年 10 月に「第 22 回国際河川シンポジウム」の分科会として開催します。また、令和元年 10 月に開催する「第 14 回 ARRN 運営会議」において、日本 (JRRN) が約 2 年務めた ARRN 事務局を中国 (CRRN) に移管します。

加えて、川づくりに関わる海外政府機関や研究機関、市民団体等の来日視察団との技術交流支援や、海外で開催される国際行事での講演等を通じて、日本がこれまで培ってきた川づくりの経験・技術等をアジアに向けて普及します。

(過去の JRRN による来日視察団支援実績： 計 32 回)

令和元年度 収入・支出予算書
(平成31年4月1日から令和2年3月31日)

(収入)

<単位:円>

項目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較増減	備考
①前年度繰越金	722,226	381	721,845	
②助成金	1,000,000	1,000,000	0	河川基金助成事業
③寄付金	0	300,000	△ 300,000	
④預金利息	170	30	140	
計	1,722,396	1,300,411	421,985	

(支出)

<単位:円>

項目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較増減	備考
①旅費・交通費	140,000	350,000	△ 210,000	検討会交通費
②通信・運搬費	20,000	10,000	10,000	事例集郵送代
③資料・印刷費	480,000	100,000	380,000	事例集印刷・製本費
④賃貸料	0	120,000	△ 120,000	
⑤委託費	350,000	340,000	10,000	事例収集・デザインアルバイト人件費、検討会テープ起こし料速記料
⑥諸謝金	0	50,000	△ 50,000	
⑦消耗品費	10,000	30,000	△ 20,000	封筒・文具代
⑧来年度繰越金	722,396	300,411	421,985	
計	1,722,396	1,300,411	421,985	

※上記は助成金のみを計上。

その他の事業に要する諸費用は、公益財団法人リバーフロント研究所の研究「河川再生の情報共有と協働の交流基盤構築に関する研究」より支出する。